



## ■ 発達障害を持つ大学生支援 研究修了のご報告 ■

昭和大学発達障害医療研究所 准教授 太田晴久  
精神保健福祉士 五十嵐美紀

梅雨時期に入り、いまだ都市部では緊急事態宣言が続く中、初夏を迎えようとしております今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

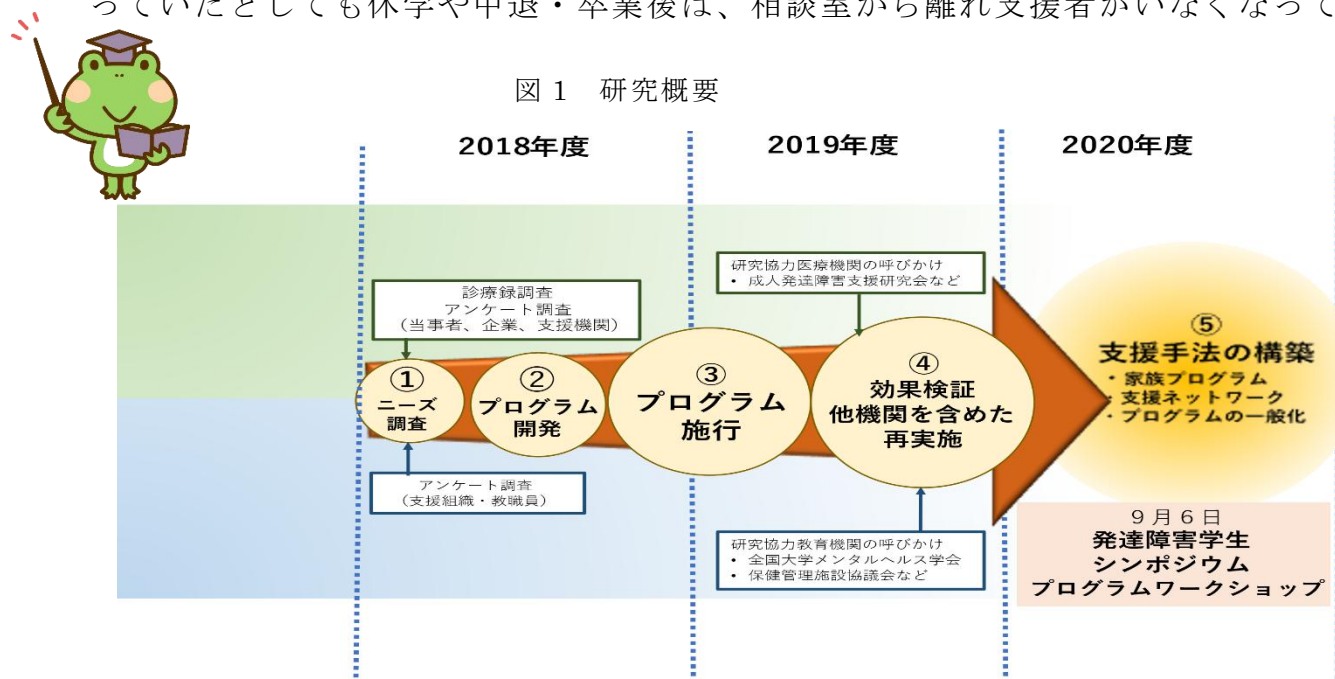
さて令和3年3月を持ちまして、日本医療研究開発機構(AMED)から受託をしておりました研究が終了いたしました。研究課題名は「発達障害を有する大学生(中退者、引きこもりを含む)へのショートケアプログラム開発と包括的支援システムの構築」になります。

東風の会世話人会の皆様からご許可を頂き、令和2年9月号/令和3年2月号と進捗についてご紹介させて頂きましたが、改めて今回ご報告をさせていただきます。

また、本研究におきましてはアンケートをはじめ、多くのご本人・ご家族よりご協力を賜りました。東風の会世話人会の皆様にもプログラム運営のサポートをしていただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

発達障害特性をもつ大学生は、社会経験が少ないことから、自己理解がしにくいこと、支援に対する抵抗感が強いことが報告されています。また学生相談室に繋がっていたとしても休学や中退・卒業後は、相談室から離れ支援者がいなくなってし

図1 研究概要



まうという課題があります。そこで本研究では、大学生に適したプログラムの開発し、医療-教育-家族と連携することで、卒業・中退後も切れ目のない支援が出来る手法を構築することを目的としています。公益財団法人神経研究所、東京工業大学、一橋大学の先生方を共同研究者としています。

研究は、図1のように進められました。この中から、大学生プログラムの実施と効果検証、ネットワーク構築について中心にご報告させていただきます。



## □ 大学生プログラムの実施・効果検証

大学生プログラムは、ニーズ調査として挙げられた内容を盛り込み、仮のプログラムを作成、各機関で実施し、改訂を繰り返し行い作成されました(表1)。自己理解編、コミュニケーション編、就職活動準備編と3期全11回に分けて進められ、心理教育や認知行動療法理論を用いながら参加者同士の体験を共有できる内容となっています。4機関で123名が参加してくださいました。プログラム参加前と参加後で同じ質問紙に回答頂き、変化を検証したところ、終了後に社会適応度が上昇することが示されました(社会適応度評価尺度 SASS、 $p=0.023$ )。転帰調査として、参加前と参加後(6~12か月)で71名を比較したところ、履修状況や就労・訓練状況が改善したことが示されました。

表1 大学生プログラム

	プログラム内容	
1	自己紹介/ 学校生活・対人関係での困りごと	自己理解
2	障害理解/ 自分にとっての発達障害とは?	
3	自分の特性を知る	
4	ピア・サポート	
5	上手な会話	コミュニケーション トレーニング
6	関係づくり/アサーション	
7	質問する/相手をほめる	
8	就労について/報・連・相	就職活動準備
9	自分の適性を知る/特性を伝える	
10	身だしなみ/外部機関の講演	
11	履歴書の書き方/模擬面接	

具体的には、[就学状況]:参加前は在学中が78%、休学18%、卒業2%→参加後は在学中が73%、休学7%、卒業16% / [履修状況]:参加前は「順調」47%、「不安定」30%→参加後は「順調」57%、「不安定」12% / [学内支援の利用]:参加前は50.7%→参加後は64.8% / [就労・訓練状況]:参加前は「なし」82.8%、「その他(バイト・インターン等)」17.2%→参加後が「なし」47.8%、「その他(バイト・インターン等)」43.5%でした。

## □ 支援ネットワークの構築

令和2年9月には、大学支援者と医療機関との連携を深め、烏山病院・神経研究所における発達障害専門外来での大学生の積極的な受け入れ等を含めた支援ネットワークの構築を目指すことを目的とした、『大学と医療をつなげる~切れ目のない発達障害の支援を目指す~』と題したシンポジウムを開催しました。参加者は、大学内支援者を中心に127名(会場40名、オンライン87名)で、うち78名からアンケートにて満足度と今後の展望等について意見を得ることが出来ました(回収率61.4%)。その結果「満足であった」94.9%、「発達障害の疑いのある学生を医療機関の受診につなげたい」83%、「大学生プログラムへの参加を促したい」76%と回答を得ました。

プログラムの効果検証では、社会適応度に変化が見られたこと、履修状況や就労・訓練状況が改善したことから、プログラムに参加することで他者や社会と関わることへの抵抗感を減らしている可能性が示されました。アンケート調査により、学内支援を使っていない方が多いことが明らかになっており、プログラムを契機につながりができ、支援チームができることが期待できると考えています。

支援ネットワークの構築ではシンポジウムだけで終わることなく、今後の情報共有・連携のため、メーリングリストおよびホームページを作成しました。

本研究終了後も大学との連携は活発に行われており、プログラムは継続して実施されています。今後も発達障害を持つ大学生が、在籍中から支援に繋がることで卒業後や中退したのちも切れ目ない支援を受けられる支援を実施していきたいと考えております。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。



## ■ 小さな市民緑地 ■

烏山病院の通りを挟んだ向かい側に大きな木々に囲まれた一角があるのをご存知でしょうか？ 個人のお宅ですが、土地所有者と一般財団法人世田谷トラストまちづくりが契約を結び、敷地の一部を一般公開しています。吉祥寺駅行きバス停「北烏山九丁目屋敷林前」の前から大きなケヤキが並び門へと続きます。初めての時は友人宅を訪問するようなワクワク感が、2度目以降は自分だけの隠れ家に行くような感覚を覚えます。



入口からすぐのところに「下山千歳白菜発祥之地」という石碑が立っています。かつては病気に弱く栽培が難しい白菜の品種改良を重ね、昭和28年にウイルス病に強い品種を作ったそうです。



奥に進むと雑木林の中に、井戸・蔵・旧母屋・竹林などが残されています。休めるよう椅子も置かれています。昔の農家の面影を感じ、タワーマンションが烏山病院だった頃に思いを馳せている



と静寂と思いきや甲州街道の車の音が…。それでも園内の緑の中に身を置くうちに、いつの間にか国道の近くだということを忘れさせてくれます。烏山病院を受診した帰り道10分ほどでも良いので立ち寄ってみてはいかがでしょうか。(K.S)

開園時間 9時から17時(11月～3月は16時まで)

休園日 年末年始(12月29日～1月3日)

※一般財団法人トラストまちづくり

<https://www.setagayatm.or.jp/>



国土地理院空中写真

## ■ 「烏山東風の会」今後のスケジュール ■

「烏山東風の会」では、新型コロナ対策対応の為、十分な活動が出来ていません。  
世話人会の見学・参加、ご意見等は下記にご連絡ください

- 携帯電話 080-3009-1200
- メールアドレス [kochinokai@au.com](mailto:kochinokai@au.com)

各種、お問い合わせ、ご相談もお受けしております。

「烏山東風の会」ホームページでも、情報を発信しています。

- 「烏山東風の会」ホームページアドレス <https://www.kochinokai.com/>



## ■ 会費振込のお願い ■

この会報誌は「烏山東風の会」に入会している方にお配りしています。新しい年度になりますので、今年度の会費につきまして1年分6000円、または半年分3000円を、以下のいずれかの銀行口座にお振り込みいただくようお願い申し上げます。

- ① 三菱UFJ銀行 永福町支店 (普) 0106550

「烏山東風の会 会計 黒田邦夫」

- ② ゆうちょ銀行 記号・番号：10000-29576521 「烏山東風の会」

お問い合わせ：黒田邦夫 090-4173-7604



## デイケア写真館

「新型コロナウイルス感染症の終息を願って」

3度目の緊急事態宣言が6月20日に解除となりました。

さらに医療従事者と、高齢者へのワクチン接種開始や、東京都内でのコロナウイルス新規感染者数の減少など、コロナ終息に向け希望が見出せる要素も徐々に増えつつあります。

デイケアでも、スタッフがすでにワクチン接種を終えたとのことで、月一回の目標設定プログラムの中で、接種後の副反応などについてお話を聞くことができました。

「接種を受けた日の夜に発熱した」、「接種した部位の痛みで腕が上がりにくかった」、「若い人ほど接種部位に痛みが出るスピードは速く、年齢が進むと痛みが出るまでに半日ほどかかる」、「男性より女性のほうが、副反応が出やすい」、「副反応は仕事に支障をきたすほどのものではないが、念のため休みの前日に接種を受けるとよい」など報道番組ではなかなか伝えられることのない貴重な情報ばかりでした。

副反応の発現には個人差があり、ワクチン接種は本人の判断に任されるものの、コロナウイルス感染症終息に向け着実に進むことができていると感じ、前向きな気持ちになりました。(M.T)

